

2022年版
葛飾区協働事例集

協働の
まち
葛飾
が
つしか



葛飾区協働事例集の発行にあたって



葛飾区は、人情にあふれ、地域内での人と人とのきずなが強い土地柄です。そのため、かねてよりさまざまな人や団体、工業、商業、農業をはじめとする区内産業に携わる方々などにより、地域を良くしようとする活動が連携して行われてきました。

このきずなによる活動は、現在に至っても脈々と受け継がれています。この特色を大切にするとともに、さらに大きく発展させて、本区との関わりのある方々や団体、事業者の皆様がそれぞれの特色を生かして協働することにより、地域を良くしようという活動はより一層の効果をあげることができます。

そして、この協働の取組が広がり、積み重ねられていくことにより、「夢と誇りあるふるさと葛飾」を築くことができると考えています。

現在もさまざまな形で協働による素晴らしい活動や事業が活発に行われています。そのごく一部ではありますが、皆様にご紹介したいと考え、14団体に取材をさせていただきました。

今回で8冊目の発行となりますが、ご紹介した方々をはじめ、各方面の皆様からの反響も大きく、喜んでいただいております。今年も、この事例集により、本区で行われている協働の取組やそれに携わる方々の熱い思いなどを皆様にお伝えし、一人でも多くの方に地域を良くする活動に関心を持っていただき、また、参加していただけるようになればと考えております。

最後になりますが、本事例集の作成にあたって取材にご協力いただいた皆様に心より感謝いたします。ありがとうございました。

令和4年(2022年)3月

葛飾区長 青木 克徳

葛飾らしい協働

葛飾区では、区と区民の皆様との連携に限らず、区民の皆様が「より良いまちにしよう」という思いをもって日々取り組んでいらっしゃる全ての活動が「葛飾らしい協働」であると考えています。

区民、事業者、団体等の多様な皆様が、地域を良くしようという思いを持ち、お互いに理解・尊重し合いながら活動することが、「夢と誇りあるふるさと葛飾」の実現していくための一歩となります。

皆様一人一人の「より良いまちにしよう」という思いを「協働の活動」につなげつつ、その活動の輪を広げていきましょう。

地域に根ざした介護予防活動 ゲームに、川柳に、脳トレに、笑顔はじける	やつるぼすまいる 八剣 笑サロン	21
腎臓をまもるための区民講演会 かからないために、かかっても寄り添うために	葛飾区地域腎友会	23
日本の「キャベツ(甘藍)発祥の地」は葛飾細田 「中野甘藍」再認識から地元の印象アップに	細田三丁目町会	25
美容師の思いから始めた区民結婚式 簡素で静かな感動にあふれた祝福の場	東京都美容生活衛生同業組合 葛飾支部・葛飾北支部	27
日用不用品販売コーナーと喫茶コーナーを運営 接客サービスを通じて 障害のある方の就労支援とごみ減量を促進	原町成年寮奥戸福祉館	29
働く人を守る仕組みを伝えたい 年金制度や働くときの法律知識を あらゆる世代の方に伝えます	東京都社会保険労務士会葛飾支部	31
「葛飾らしい協働」の輪を広げていくために		33
葛飾区における協働事例をYouTubeやDVDでご覧いただけます		35
葛飾協働まちづくり表彰		36
葛飾区職員出前講座		37
協働のまち葛飾 下町川柳コンクール		39
葛飾みんなの協働サイト		41
採用2年目職員の「協働研修」を紹介します!		43
ボランティア・地域貢献活動センター		45

葛飾らしい協働		1
区長あいさつ		2
子どもの将来が生まれ育った環境によって 左右されることのないまちを目指して	かつしか子ども食堂・ 居場所づくりネットワーク	5
科学の楽しさを伝える「オドロキ科学館」 学生の工夫で子どもたちを笑顔に	東京理科大学みらい研究室実行委員会	7
大舞台での演奏で喜び、成長する子どもたち! 異なる学校・学年の演奏チームが交流し、 将来について考える機会にも	ゆめコンサート実行委員会	9
小1から高3までの広い年代が共に学ぶジュニアコーラス 学んだ歌がだれかとだれかをつないでいるという実体験に	シンフォニーヒルズ少年少女合唱団	11
誰もが同じルール・コートでできるスポーツ 個人を尊重し、多様な人が参加できる「ポッチャ」が、 多世代や地域のつながりに貢献	葛飾区ポッチャ協会	13
70年以上にわたって区のスポーツを牽引 子どもにも大人にも、陸上競技の楽しさを伝えたい	葛飾区陸上競技協会	15
共助・互助から模索した買物弱者支援事業 住民同士の交流や見守りにも発展	高砂団地自治会	17
高齢者が集うサロン活動 地域ぐるみでふれあい、支え合い、助け合う	奥戸ふれあいネット	19

かつしか子ども食堂・居場所づくりネットワーク



フードパントリー



お弁当プロジェクト



絵本の読み聞かせ



寄付された食材



寄付された食品を子育て家庭に届ける

子どもの将来が生まれ育った環境によって左右されることのないまちを目指して

かつしか子ども食堂・居場所づくりネットワークは、子ども食堂や子どもの居場所のために活動している個人、団体が、メーリングリストで情報交換をしながら連携しているネットワークです。

子ども食堂や子どもの居場所を運営する団体が運営委員（令和3年10月現在 16団体）となり、これまで、区内で、学習会・研修会の開催、個人や企業でまだ食べられるのに廃棄される食糧を困窮家庭に配布する「フードパントリー」、学校給食のない長期休みなどに困窮家庭の子どもの食を支援する「お弁当プロジェクト」などの取組を行ってきました。また、ネットワークで作成した子ども食堂を紹介する「かつしか子ども食堂マップ」は、区を通じて区内の全小・中学校のほか、児童館等にも配布しています。

「子どもの貧困」という社会問題に関心を持ちながら、誰でも自分の居場所を見つけられる開放された場を理想とし、「困難」を抱えた子どもがいたら見逃さず、見守り、必要なときは行政や専門機関につなげるようにアンテナを張って、日々取り組んでいます。

インタビュー

緒方美穂子さん

このネットワークは、平成29年に葛飾区社会福祉協議会が主催した子ども食堂に関する講座の参加者が、講座終了後もつながりを持ち続けようとメーリングリストを作ったことが始まりでした。その後、平成30年3月に初めてネットワーク作りの相談会を区の後援で開催し、その年の4月に発足しました。

子ども食堂の活動は、食事の提供だけでなく、子ども居場所や学習支援など、子どもの日常を豊かにするものです。同時に、生きづらさや困難は誰にでも起こりえることで、そんなときに区役所や支援をする機関に橋渡しもできる、身近な安心できる場所、頼りにできる場所となるように、活動を通して、悩みや困りごとにも寄り添っていききたいと思います。



特長1 16団体が連携して活動

特長2 さまざまな種類の支援の取組

特長3 区と連携してマップを配布

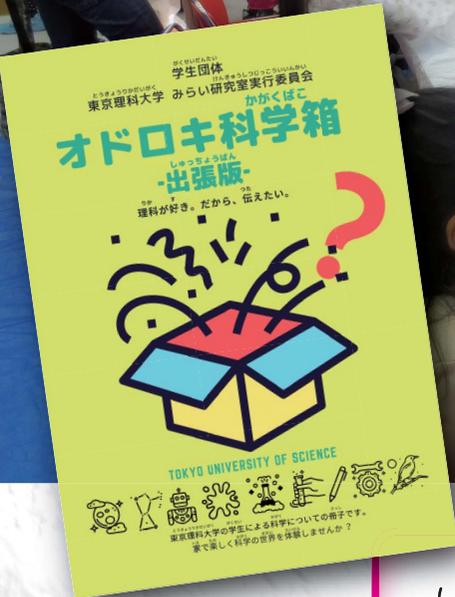
東京理科大学 みらい研究室実行委員会



たくさんの学生サークルが参加する「オドロキ科学箱」



科学の楽しさを体験



科学の楽しさを伝える「オドロキ科学箱」 学生の工夫で子どもたちを笑顔に

東京理科大学と区は葛飾キャンパスが設置されたことを機に様々な事業を行っており、その一つに「オドロキ科学箱」があります。

オドロキ科学箱は東京理科大学の学生サークルが中心となり、区との共催で主に小学生以下の子どもたちに体験や展示等を通して科学の楽しさを伝える催しで、平成23年度より区内の公共施設で開催してきました。プラネタリウム上映や太陽電池づくり、レーシングカー製作などの企画は希望者が多く整理券が必要になるほどです。

コロナ禍の令和2年度は学生たちの強い希望で、子ども向けの科学啓発雑誌「オドロキ科学箱 出張版」を作成し、区立小学校の全児童に配りました。令和3年度には、映像配信や資料のダウンロードによる「WEBオドロキ科学箱」を実施しました。

オドロキ科学箱は、子どもたちに科学の楽しさを伝えることに加え、自分たちが自らで企画・運営を行うことで、普段の講義や実験、課外活動などとは異なる学びや気づきを得る機会ともなります。

今後も、子どもたちの学びを支える催しとして大切にしたい取組です。

インタビュー 藤崎 理帆さん / 村上 佐和子さん

みらい研究室実行委員会は、学生サークルを取りまとめた全体の企画運営をしています。イベントの全体像が見通せるのでとてもやりがいがあります。参加した小学生が駐輪場で「二日とも来た」と満足げに話してくれ、たことが印象に残っています。科学の楽しさを子どもたちに伝えられることもやりがいがあります。

コロナ禍でサークル活動自体が制約を受け、対面での活動ができなかったり、新入部員が入ってこなくなったりという困難に直面していますが、これからもこの活動は後輩に引き継いでいければと思っています。



藤崎さん



村上さん

特長1 学生サークルの自主的な企画

特長2 コロナ禍で対面以外の活動も

特長3 参加する子どもたちの科学体験



大舞台に立てる醍醐味



実行委員の皆さん

大舞台での演奏で喜び、成長する子どもたち！
異なる学校・学年の演奏チームが
交流し、将来について
考える機会にも

音響がよいと評判のかつしかシンフォニーヒルズ。「いい音楽ホールが区内にあるのだから、日ごろから音楽に親しんでいる子どもたちに演奏を体験してもらったらどうだろう、もちろん観客を入れた大舞台で…」という思いから、「ゆめコンサート」は生まれました。

東京葛飾中央ロータリークラブが社会貢献として始めた事業で、初演は平成10年。当初は各学校に理解と参加を呼びかけていましたが、20回以上の開催を重ねるうちに、参加希望校を選ばなくてはならないほどに定着しました。現在は区との協働事業となり、広報活動や会場となる音楽ホールの提供等で支援を受けています。また、「コンサートの盛況ぶりから他団体からも関心をもたれて縁がで、青年会議所やボーイスカウト、PTA連合会、保護司会などの協賛も得ています。

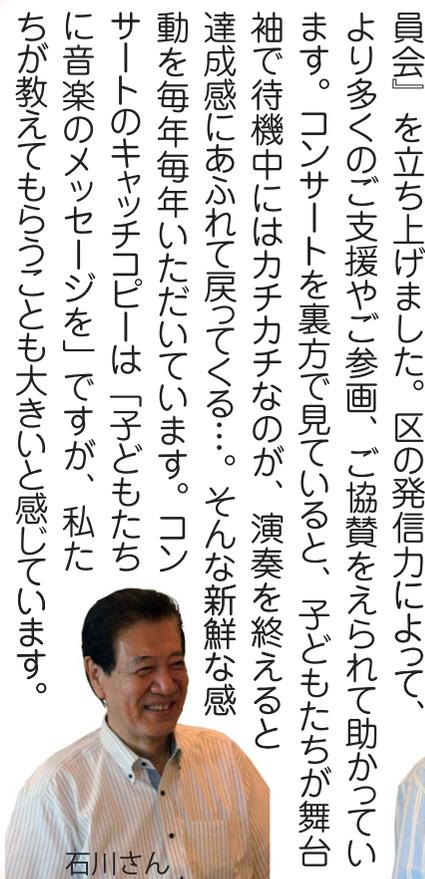
小・中学生や高校生、大学生などの演奏チームが同じ舞台に立つことにより、学校や学年を越えた交流が生まれています。区内には全国レベルの高校吹奏楽部などが複数あり、その出場がコンサートを大きく盛り上げます。より高いレベルの演奏を間近に見て、子どもたちが近い将来への音楽への携わり方について具体的な展望を持つようになった、そんなエピソードもあるそうです。

インタビュー

実行委員長：齊藤 勝治さん

副実行委員長：石川 宏太さん

東京葛飾中央ロータリークラブを発会した際、社会貢献で青少年育成活動をしていくこと『ゆめコンサート実行委員会』を立ち上げました。区の発信力によって、より多くのご支援やご参画、ご協賛をえられて助かっています。コンサートを裏方で見ていると、子どもたちが舞台袖で待機中にはカチカチなのが、演奏を終えると達成感にあふれて戻ってくる…。そんな新鮮な感動を毎年毎年いただいています。コンサートのキャッチコピーは「子どもたちに音楽のメッセージを」ですが、私たちが教えるのもう一つ大きなことと感しています。



石川さん



齊藤さん

特長 1

区内各学校の児童・生徒の発表の場

特長 2

小学生から大学生まで多世代の交流

特長 3

子どもたちの夢がふくらむ

シンフォニーヒルズ 少年少女合唱団



定期演奏会



練習風景



メンバーは小学生から高校生まで

小1から高3までの広い年代が共に学ぶジュニアコーラス
学んだ歌がだれかとだれかを
つないでいるという実体験に

かつしかシンフォニーヒルズを拠点に活動するシンフォニーヒルズ少年少女合唱団。区との協働事業であるため、学校などに団員募集の周知が行き届き、区内全域から約80名の子どもたちが集まります。さらに毎年おこなわれる定期演奏会やクリスマスコンサートがきっかけで、ぜひ一緒に歌いたいと応募してくる親子も多くいます。

令和3年度に18年目を迎えた合唱団のレッスンは週2回。プロのオペラ歌手でもある宮本益光氏を音楽監督とし、プロの音楽家、ピアニストなど6名の専門家たちの指導により磨かれた子どもたちのコーラスは、地区センターや介護施設などで開催されるアウトリーチコンサートで披露されています。鑑賞した区民の声援から、合唱団が地域と共にあり、育てられ愛されていると実感できます。

日頃の活動にあたっては、練習室やコンサート会場の確保などの区の支援を受けながら、地域といかに密接に関係性を作っていくかというところまで配慮される合唱団運営は、全国を見まわしてもあまりないとか。小学1年生から高校3年生までが稽古で一緒に歌うことや、比較的男子の割合が高いことも特徴です。

インタビュー

音楽監督：宮本 益光さん



合唱というのは一人ではできないことです。大勢の中で一人としての役割をいかに果たすかということ、人として社会に入っていくために必要なことを、歌を通して学んでほしいです。培われた音楽が、生活の中に当たり前に溶け込んでいく、それが区の中全体に広がって、葛飾は歌があふれる街だといわれる、その旗印みたいなチームになってほしいと思っています。

指導者：柏原 美緒さん



小学1年生のまだ幼い子から大人のような高校3年生までが、一緒に歌い、集団行動をするという経験は、子どもたちにとって貴重な体験になるはず。卒団後も心の拠り所になるようなそんな合唱団にしていきたいと思っています。

特長1

区内全域から子どもたちが集まる

特長2

指導体制が充実している

特長3

地域住民が文化芸術を親しむ機会に



練習風景



ボッチャボール



交流会



協会の皆さん



審判育成講習会

誰もが同じルール・コートでできるスポーツ

個人を尊重し、多様な人が参加できる「ボッチャ」が、多世代や地域のつながりに貢献

「ボッチャ (Boccia)」は欧州で脳性まひや四肢に障害のある人のスポーツとして考案されました。一つのジャックボール (目標球) を目掛けて赤と青6個ずつのボールを投げ、どれだけジャックボールに近づけられるかを競うスポーツです。ボッチャが区内でプレイされるようになったのは、葛飾区ボッチャ協会が確認できる限りでは、およそ20年前からのこと。特別支援学校の有志が「やろうぜー」とプレイヤーを募ったのが始まり。区内在住のパラリンピック代表選手が始めたのもこの時期です。

平成20年度には区のスポーツ推進委員協議会がボッチャの普及に取り組みはじめ、講習会や交流会の開催と順調に広まり、平成30年度には葛飾区ボッチャ協会を設立。区との協働事業が行われるようになりました。

ボッチャは、障害者や健常者、老若男女の誰もが同じルールとコートでできるスポーツでもあります。それだけに審判は、優しさや毅然とした姿勢、身体が不自由な選手へのケアや意思の尊重など細かい気配りが必要です。そのため競技の普及に加え、審判の育成にも力を入れています。

インタビュー

金澤 正義さん 荒井久美子さん
中村 康昭さん

ボッチャは世代や障害特性を越えてみんなで楽しむ、SDGsの理念でもある、「ひとりも取り残さない」タイプのスポーツです。お祭りや野球チームが無くなったりと、地域のコミュニケーションが希薄になってきたので、ボッチャで高齢者や子どもとのふれあいができればいいと思います。葛飾でも、常設コートがあつて、「いつでもどこでもできるんだね」という所を広げていきたい。また、だれもが楽しめるスポーツと言えば、ボッチャが挙がるよう、認知度を高めたいと思っています。



中村さん 荒井さん 金澤さん

特長1 世代や障害特性を越えて楽しめる

特長2 区と競技団体が協働で普及促進

特長3 パラリンピック代表を輩出



かけっこ教室 & 100m記録会



葛飾柴又ロードレース大会



協会の皆さん

70年以上にわたって区のスポーツを牽引
子どもにも大人にも、

陸上競技の楽しさを伝えたい

葛飾区陸上競技協会が設立されたのは戦後間もない昭和22年。都内でも最も早く設立された競技団体の一つで、区民が参加する陸上競技大会の運営を担っています。

区主催の「かけっこ教室&100m記録会」では、写真判定装置を使用し、大会さながらの正確なタイム計時を行います。そして、撮影したフィニッシュ時の写真を希望者に配布したり、参加者全員に記録証を発行したりするなど、陸上競技の楽しさを伝える工夫をしています。また、区が主催するマラソン大会である「かつしかふれあいRUNフェスタ」では第1回大会から実行委員会のメンバーとして携わるほか、年6回の陸上関係の大会で、準備や運営を区と協働して行い、各大会多くの区民の方に参加いただいています。

陸上競技では、その競技に参加したいと思ってもらえるよう工夫をする「普及」、参加選手の競技能力を伸ばす「育成」、そしてトップアスリートへ導く「強化」の三つのステップがあります。今後も、陸上競技の魅力、楽しさを体験できること、記録向上につながることを目指し、縁の下の力持ちとして区の陸上競技を支えていきます。

インタビュー

矢作 和昭さん 渥美 孝之さん
福部 國弘さん

陸上競技の魅力は、多様です。自身と向き合う孤独さがいいという人もいれば、競技会で多くの人とふれあえるのが楽しいという人もいます。また大会で選手としてボランティアや審判などの運営側として、選手を応援する観客としてなど、どの参加の仕方も大事です。

協会では、一人でも多くの人に陸上競技の魅力伝えて競技人口を増やすことに加え、東京陸上競技協会と連携して審判資格取得者を増やしたり、学校や地域のスポーツ団体と連携して若い世代の育成にも今後取り組んでいきたいと考えています。



福部さん

渥美さん

矢作さん

特長1 都内でも有数の歴史を誇る

特長2 陸上競技の楽しさを伝える

特長3 東京陸上競技協会や学校、地域のスポーツ団体と連携



買物の機会を提供



住民同士の交流の場にも



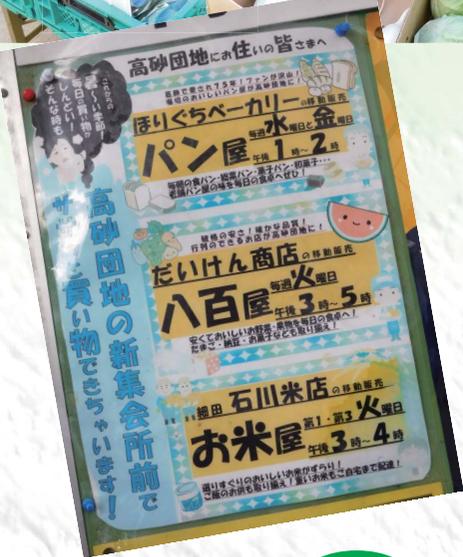
店員さんとのふれあい



雾田気はアットホーム



選ぶ楽しみも



共助・互助から模索した買物弱者支援事業

住民同士の交流や見守りにも発展

高砂団地自治会は、都の「買物弱者支援事業」を活用し、買物に出かけることが困難になった人に、その機会を提供しています。

昔は団地内にいくつもお店があり、行商の方が野菜や鮮魚などを売りに来ることもありました。しかし現在はいずれもなく、高砂駅前やそれと同じくらいの距離のスーパーまで出かけないと食料品が手に入らなくなり、高齢者には大きな負担でした。

団地の建て替えの時期から、自治会有志が買物の送り迎えを行ってきましたが、個々の対応では限界があり、買物難民という言葉に危機感を覚えていました。そこで、内外に協力を呼びかけながら、令和元年12月、団地内にテントによる簡易店舗の設置を実現させました。毎月、パン屋、八百屋、米屋が出店し、多いときは約50人が来店しています。

この事業には買物困難の解消とともに、住人の孤立を解消する役割もあります。来店や通りがかりの住民同士や店員との会話が生まれて、交流の輪が広がっています。

インタビュー 高砂団地自治会長 南秋彦さん

高砂団地に居住している多くは70歳以上の高齢者世帯です。高砂団地自治会は、各フロアーに班、各棟に支部が組織され、住民が暮らしやすくなるように活動しています。

団地内での販売は、買物弱者の支援に加えて、住民同士のつながりや来なかつた住人の確認ができる「イベント」になっており、自治会として取り組む意義が大きいと思います。現在コロナ禍で外に出られず、ふさがちになっている住人のストレスや孤立の解消にもなっていると実感しています。



特長1 住民ニーズから出発した活動

特長2 買物支援に加え、交流の場にも

特長3 日常生活の一部として定着 利用者が大満足



手先を使う作品づくり



みんなで脳トレ



距離を保って身体を動かす



サロンを支える皆さん



高齢者が集うサロン活動

地域ぐるみでふれあい、支え合い、助け合う

奥戸ふれあいネットは、葛飾区社会福祉協議会が進める「小地域福祉活動」の一つでもある「サロン活動」など、地域の福祉活動を推進していく団体です。奥戸地区の連合町会と民生委員児童委員協議会が中心となり、地域の方々をはじめ、福祉関係者、高齢者クラブなど、多くの方が参画しています。身近な地域で「ふれあう」「支えあう」「助け合う」しくみを築き、だれもが安心して暮らせる地域になるように活動しています。

現在は、東奥戸集い交流館で「笑顔で会いましょう」、西奥戸憩い交流館で「ゆずの会」の2つのサロンが定期的に開催されています。サロンでは、体操や脳トレなどのほか、万華鏡づくりや塗り絵など、手先を使う作品づくりも行っています。製作した作品は、かつしか大人のアートフェア(高齢者作品展)にも出品しました。

一人暮らしの参加者からは、このサロンがなければ一言もしゃべらないこともある、という声も聞かれます。また、サロンのことが話題になって、家族との会話が増えたという人もいます。高齢者の孤独感の解消に、サロンが役立っています。

インタビュー 滝田 節子さん / 田島 恵美子さん

小地域福祉活動の話を受けたとき、最初は他地域でと言われましたが、ぜひ地元でやってみたいと思いました。自分が楽しんでいけるからできるし、特別なことをやっているわけではないと思っています。



滝田さん

現在の課題は、運営に携わる人、「後継者」の引き継ぎです。町会も、生活スタイルの変化などから加入率の低下や運営する人の高齢化に直面しています。そのような中で、地域全体の取組として、小地域福祉活動を今後どのようにしていくのが課題だと思っています。



田島さん

特長1 町会、民生・児童委員、社会福祉協議会との協働

特長2 高齢者の孤立・孤独を解消する取組

特長3 成果を大人のアートフェアに出展

八劔笑サロン



じっくり考えるまちが絵さがし



サロンを支えるスタッフの皆さん



笑い声が響く打合せ



脳トレでも笑顔があふれる

地域に根ざした介護予防活動

ゲームに、川柳に、脳トレに、

笑顔はじける

八劔神社の社務所から、明るい笑い声が響いてきます。毎月第一・第四木曜日の午後、近隣の高齢者が集まり、「八劔笑サロン」が開かれています。

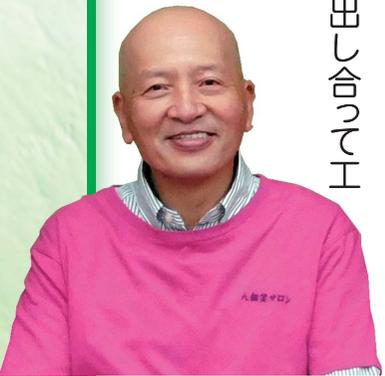
この「八劔笑サロン」は、八劔ラジオ体操会のメンバーが中心になって運営している、地域に根ざした介護予防活動です。活動は、参加者の自己紹介から始まります。大きな声で全体に聞こえるように話すことで、準備運動にもなります。体操や筋トレ、脳トレなど、10分程度のプログラムがテンポよく進んでいきます。後半は二つのグループに分けての対抗ゲーム。他の参加者に声援を送ったり拍手をしたり、会場はいつそつにぎわいます。

プログラムはスタッフが意見を出し合って決めていきます。参加者一人ひとりの身体的な特性なども思い浮かべながら、ルールや進行方法など細かな工夫をしていきます。また、感染予防に配慮して机の配置を変更したり、プログラムの内容にも配慮しています。参加者の笑顔が、スタッフも元気にしてくれます。

インタビュー

八劔笑サロン会長 岡田 正孝さん

八劔神社では50年以上にわたって毎朝ラジオ体操会が行われています。笑サロンはラジオ体操会の役員を中心に始められました。サロンを始めるため、10名のスタッフの内6名が生活介護員養成研修を受講し資格を取得しました。プログラムも皆で意見を出し合って工夫しています。今後も笑顔にあふれる場にしていきたいと思っています。



特長1 住民主体の介護予防活動

特長2 スタッフと参加者の創意工夫

特長3 身体活動も脳トレも



様々な講師による講演会



100人を超える参加者

第6回 腎臓をまもるための区民講演会

事前申込不要
抽選あり
入場無料
定員約100人

日時 令和元年10月27日(日)
午後1時30分～3時30分
開場 午後1時

場所 健康プラザかつしか 3階大ホール 定員約100人
葛飾区青戸4-15-14 葛飾区保健所
葛飾区青戸4-15-14 成人の8人に1人は慢性腎臓病!?

はっつけ ないぞう! 成人の8人に1人は慢性腎臓病!?

演題
○「慢性腎臓病(CKD)から透析導入を遅らせるために」
○「腎臓再生医療はどこまで進んでいるか?」
*参加者からの質問時間もあります。

講師 横尾 隆 教授
東京慈恵会医科大学 腎臓・高血圧内科

会場案内(健康づくり課)

交通アクセス
京成線「青砥」駅 徒歩15分
京成バス
亀有駅～新小岩駅(新小53)
亀有駅～健康プラザかつしか(下) 徒歩約3分
「かつしか」バス停から徒歩約5分
都営バス
会期前～会期中(京30)
会期前～会期中(京30)
*お車でのご来場はご遠慮下さい。

主催 葛飾区地域腎友会・葛飾区健康部(保健所) 健康づくり課
お問い合わせ先 健康づくり課 ☎ 03-3602-1268



腎臓をまもるための区民講演会
かかからないために、
かかっても寄り添うために

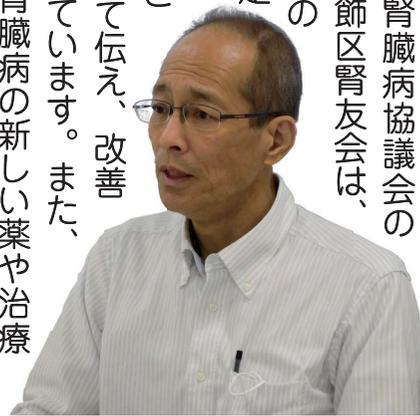
近年、腎臓病の患者数は増加傾向にあり、「新たな国民病」と指摘する専門家も出ています。そのような状況を受け、区内在住の腎臓病患者でつくる葛飾区地域腎友会では、平成26年度から区と協働で「腎臓をまもるための区民講演会」を開催しています。

腎臓病は誰もが発症する可能性がある病気であること、定期健診や早期の受診で初期のうちに発見すれば、重症化を抑えられたり遅らせたりできることを、腎臓病を体験している立場だからこそ伝えたいという思いで、講演会を企画運営しています。

講演会は毎年1回開催し、令和元年度には100人を超える参加者がありました(令和2・3年度は「コロナ禍のため中止」。参加者の7割以上が一般の区民ですが、受講後のアンケートでも高い評価をいただいています。

講演会を通じて腎臓病を予防する意識を高めるとともに、もし腎臓病に罹患した場合には患者に寄り添う腎友会があるということを知ってもらえるよう取り組んでいます。

インタビュー 葛飾区地域腎友会会長 小関 盛通さん



特定非営利活動法人東京腎臓病協議会の歴史は約50年になります。葛飾区腎友会は、協議会に加盟する患者団体の有志によって平成18年に発足しました。腎臓病患者の生活上のニーズや災害対策などを区議会への請願などを通じて伝え、改善につなげていく役割を果たしています。また、患者同士の交流を通じて、腎臓病の新しい薬や治療方法に関する情報共有などを行うことも、心の拠りどころとしても役立っています。

近年は、会員が減少傾向にありますが、今後はホームページやSNSで情報発信を活発化するなど、新しい手段で仲間を増やしていきたいと思っています。一方で、区民講演会などを通じて、同じ苦労をする人が増えないための啓発活動も続けていきます。

特長1 腎臓病患者と保健所の協働

特長2 予防のための啓発活動

特長3 区民への働きかけに効果



子どもたちに人気の「かんらんちゃん」



ゆるキャラ「かんらんちゃん」



学校農園でもキャベツを栽培



江戸・東京の農業 中野甘藍

キャベツ（和名・甘藍）が野菜として日本に入ってきたのは明治の初年、涼しい気候を好む野菜なので秋に収穫されていました。明治15年頃、西洋野菜の将来性に注目していた細田の篤農家・中野藤助は、苦心してキャベツの品種を集め、10数年間にわたり栽培研究に没頭しました。30年頃になると、藤助の予想通り、キャベツの需要が急増してきましたが、初夏には貯蔵キャベツも無くなるため、秋にタネをまいて春どりすることができないものかと、輸入種の中から優れた品種をみつけて改良を続け、ついに秋にタネをまき春収穫できる品種の育成に成功しました。35年、藤助は東京府立農事試験場金町分場や国の農事試験場にも試作を依頼し、優秀であると絶賛され「中野甘藍」と命名し不動のものとなりました。44年には近隣の農家に栽培が広がり、南葛飾郡内の栽培面積は45ヘクタールに達し、特に中野甘藍は暖地に適した品種なので、以後、大正の初期にかけて九州や四国を始め全国に広まるなど、現存でのキャベツ栽培の基礎を築きました。

平成9年度 JA東京グループ 農業協同組合法施行五十周年記念事業 葛飾農業協同組合

THE AGRICULTURE OF EDO & TOKYO
Nakano Cabbage

Cabbage was introduced into Japan around 1868. Being a crop for cool climate, it was usually grown and harvested in autumn. Around 1882, Tōsuke Nakano, an outstanding farmer of Okudo, had a promising outlook on the future of European vegetables and devoted himself over ten years in the researches on the cultivation of a number of cabbage varieties he collected from various parts of the world. As he expected, demand for cabbage increased toward 1897 and, then, he finally succeeded in developing a new variety which could be sown in autumn and harvested in spring just before the ordinary cabbage was gone toward early summer. Since the Nakano cabbage was compatible with warmer climate, it was rapidly extended over to other districts including Kyushu and Shikoku toward the beginning of Taisho Era and, thus, greatly promoted cabbage production in Japan.



収穫したキャベツは学校の給食に

細田神社の案内看板

- 特長1 地元の歴史を見つめなおす
- 特長2 商店街や小学校との協働
- 特長3 小学校の食育にも活用



インタビュー 会長 月村 富次さん / 副会長 石成 茂治さん 副会長 加瀬 真由美さん

現在の細田は、農家の方々など昔から住んでいる人も大勢いますが、今では、新しく引越してきた人の方が多いと思います。その引越してきたてきてくださった方を一軒一軒訪ねたり、お祭りにご招待したり、役員が困り事相談を受けたりしながら、町会を身近に感じていただき、加入率は8割以上となっています。

私が町会長になったとき、家族に「地区の相談役だね」と言われました。

地域全体も町会の役員も高齢化しているので、今後はホームページを立ち上げて若い人に町会のことをわかりやすく伝えて、興味を持ってもらえるよう考えています。

日本の「キャベツ」(甘藍)発祥の地「は葛飾細田」

「中野甘藍」再認識から 地元の印象アップに

西洋原産のキャベツを改良して日本の気候に適した品種「中野甘藍」を生み出し、栽培の基礎を作ったのは、細田地域の篤農家・中野藤助です。このことは折に触れて伝えられてきましたが、地元ではあまり意識されていませんでした。小学校の道徳の教科書に、中野藤助を題材とした作品が掲載されたことをきっかけに、「中野甘藍」を前面に出したまちおこしに向けて、町会、学校、法人会、地域の人たちの心を一つにしながら、地域振興活動が大きく前進していきました。

中野甘藍をモチーフにしたゆるキャラ「かんらんちゃん」を町会と商店街で考案し、商店街の幟や着ぐるみなどを制作しました。

また、道徳の教科書からキャベツ改良のエピソード「キャベツにかけた夢」を抜き刷りした冊子を作り、町会が細田小学校に贈呈。子どもたちが郷土の歴史に触れあう教材として親しまれています。

中野甘藍は、現在は栽培されていませんが、近縁種の種を茨城県の試験場より分けてもらい、区の「農業応援サポーター養成事業」で栽培したり、細田小学校の学校農園でも栽培に取り組み、給食に提供したりしています。

東京都美容生活衛生同業組合
葛飾支部・葛飾北支部



心に残る結婚式に



晴れ晴れとした笑顔



多くの方が祝福



運営スタッフの皆さん



2016美容組合主催葛飾区民結婚式



第六回葛飾区民結婚式
葛飾区美容組合主催

美容師の思いから始めた区民結婚式

簡素で静かな感動にあふれた

祝福の場

さまざまな理由で結婚式を挙げられなかったカップルを招き、区長を立会人として行われる「区民結婚式」。

区内の美容室の集まりである東京都美容生活衛生同業組合葛飾支部・葛飾北支部の事業として平成27年から行われています。

組合では、10年以上前から「美容まつり」に取り組んできました。子どもを対象にした美容師体験や、震災被災地の野菜直売など、例年たくさんのお客様に楽しんでもらってきたものの、もっと区民との接点を強めたいという組合員の思いから、区民結婚式のアイデアが生まれました。

区の広報紙などを通じて募集を行い、毎回多数の応募がある中からエントリーシートをもとに二組（和装と洋装各一組）を選出します。当日は、組合員総出でヘアメイク、着付けその他の装飾や会場設営まで行います。区長を立会人とした人前結婚式のセレモニーには、挙式するカップルの招待客を始め、多くの方が参列し、祝福しています。

区民結婚式は、その人の美しさを引き立たせて幸せにするという美容師らしい取組であるとともに、美容師の技量の向上にもつながっています。

インタビュー

葛飾支部・支部長 勝野 新吾さん
葛飾北支部・支部長 田中 保範さん



勝野さん



田中さん

区内には現在130軒ほどの美容室があります。一つは地域に根ざした小さなお店です。コロナ禍にあっても、安心して来店できるよう換気や検温、手指消毒などを全店舗で徹底しており、二酸化炭素測定器や空気清浄機を導入した店舗も数多くあります。

さらに、区と協働し、他区に先駆けて寝たきりなどで来店が困難なお客様を対象にして出張美容を行いました。「身ぎれいにして明るい気持ちになった」などお声をいただく嬉しいですし、やりがいにも繋がります。

今後美容業界の力を結集し、区民にとって人生の思い出となる「区民結婚式」をプレゼントしていきたいと思っています。

特長1 区内全域の美容室が取り組む

特長2 区民に笑顔を届ける活動

特長3 美容師の技量向上にも



利用者による自主生産品



品出しの準備



日用不用品販売コーナー「ゆず屋」



スタッフの皆さん

日用品販売コーナーと喫茶コーナーを運営
接客サービスを通じて障害のある方の
就労支援とごみ減量を促進

社会福祉法人原町成年寮奥戸福祉館は、障害のある方の就労支援の一環として、かつしかエコライフプラザ内で日用品販売コーナー「ゆず屋」と喫茶コーナー「タッセル」を運営しています。

「ゆず屋」では、区民から無償で譲り受けた衣類や食器、区オリジナル再生品のトイレットペーパーを販売しており、開店直後から多くのお客様で賑わいます。どの商品も手頃な価格で販売しています。特に子ども服は、すぐにサイズが合わなくなり、着られる期間が短いことから、低価格で販売しています。そうして購入された子ども服は、子どもが成長した際にまた「ゆず屋」にご提供いただくこともあり、繰り返し使う「リユース」に結びついています。

また、「タッセル」は施設の来館者がランチやデザートを楽しめる、一息つける場として地域に定着しました。

奥戸福祉館を利用する障害のある方にとって、「ゆず屋」と「タッセル」での活動は、区民や地域と交流を図ることができ、働くことの楽しさや喜びなど生き甲斐の創出につながります。また、「ゆず屋」の事業は、障害のある方の就労支援の側面だけでなく、区のごみ減量の促進など、環境にやさしい取組にもつながっています。

インタビュー

横山 孝幸さん

原町成年寮奥戸福祉館では、障害のある方の就労支援等の一環として、パンの製造や販売、グループホームの清掃作業などを行っています。平成31年から「ゆず屋」「タッセル」を運営し、利用者が行う接客や商品の陳列などの支援を行っています。「ゆず屋」では、利用者が製作した自主生産品の販売も行っており、いずれは販売規模を拡大して、社会福祉法人全体のアンテナショップ的なコーナーを作りたいです。

リユースの促進を図りながら、事業所の利用者が楽しんで仕事をして、地域の方やお客様と交流が持てる、店に来るお客様と交流が持てる、その場所を継続していけたらと思っています。



特長1 「福祉」と「環境」の「ラボ」

特長2 障害のある人の働く場

特長3 地域の人びとが集う場



知って、得する年金講座



講座後の相談会

働く人を守る仕組みを伝えたい
年金制度や働くときの法律知識を
あらゆる世代の方に伝えます

東京都社会保険労務士会葛飾支部は、働く人を守る仕組みである年金制度や労働法令の普及活動を行っています。その一環として、かつしか区民大学で「知って、得する年金講座」、小・中学校での「出前授業」を区との協働事業として開催しています。

「知って、得する年金講座」に参加されるのは、もうすぐ老齢年金をもらう年齢層の方が多く、いくらもらえるか、繰り上げたほうがよいかなど、年金そのものの相談にとどまらず、定年後の働き方を含めトータルの生活設計を提案することも。社会保険労務士の個性が発揮されます。また、個別相談では、葛飾年金事務所協力のもと、その場で将来の年金見込額を確認することもできます。

小学生対象の出前授業では、「みんなを助ける！ お金の仕組み」と題し、国民年金を題材に、年金の種類（老齢・障害・遺族）や年金をもらうための約束（保険料の納付、各種手続）を伝え、寸劇を交えながら年金が日本全体の支え合いの仕組みであることが学べます。

中学生対象の出前授業では、「知っておきたい！ はたらくときの約束」と題し、将来社会に出て働くとき、会社と従業員の双方が守るべきルール・約束を中心に、労働に関する基本的な法律知識を学ぶことができます。

インタビュー 村澤 詩子さん / 下平 伸二郎さん

私たち社会保険労務士のお客様は、従業員を雇う企業、がほとんどです。最近のご相談で多いのは、「せっかく採用した人材が定着しない」こと。その理由は、例えば、仕事と子育て、親の介護との両立ができないことがあります。ところが、育児・介護休業法に基づく休暇制度や、雇用保険の育児・介護休業給付金など、両立をサポートする制度については、十分に活用されているとはいえません。

私たちは、企業とそこで働く方々の双方がどのような制度を円滑に活用することを含め、企業の「ユア」ごまじわる支援を中心に、日々業務を行っています。



村澤さん



下平さん

特長1 年金等の社会保障制度が身近に

特長2 小・中学生にも分かりやすい出前授業

特長3 職業生活を二層充実させる情報提供

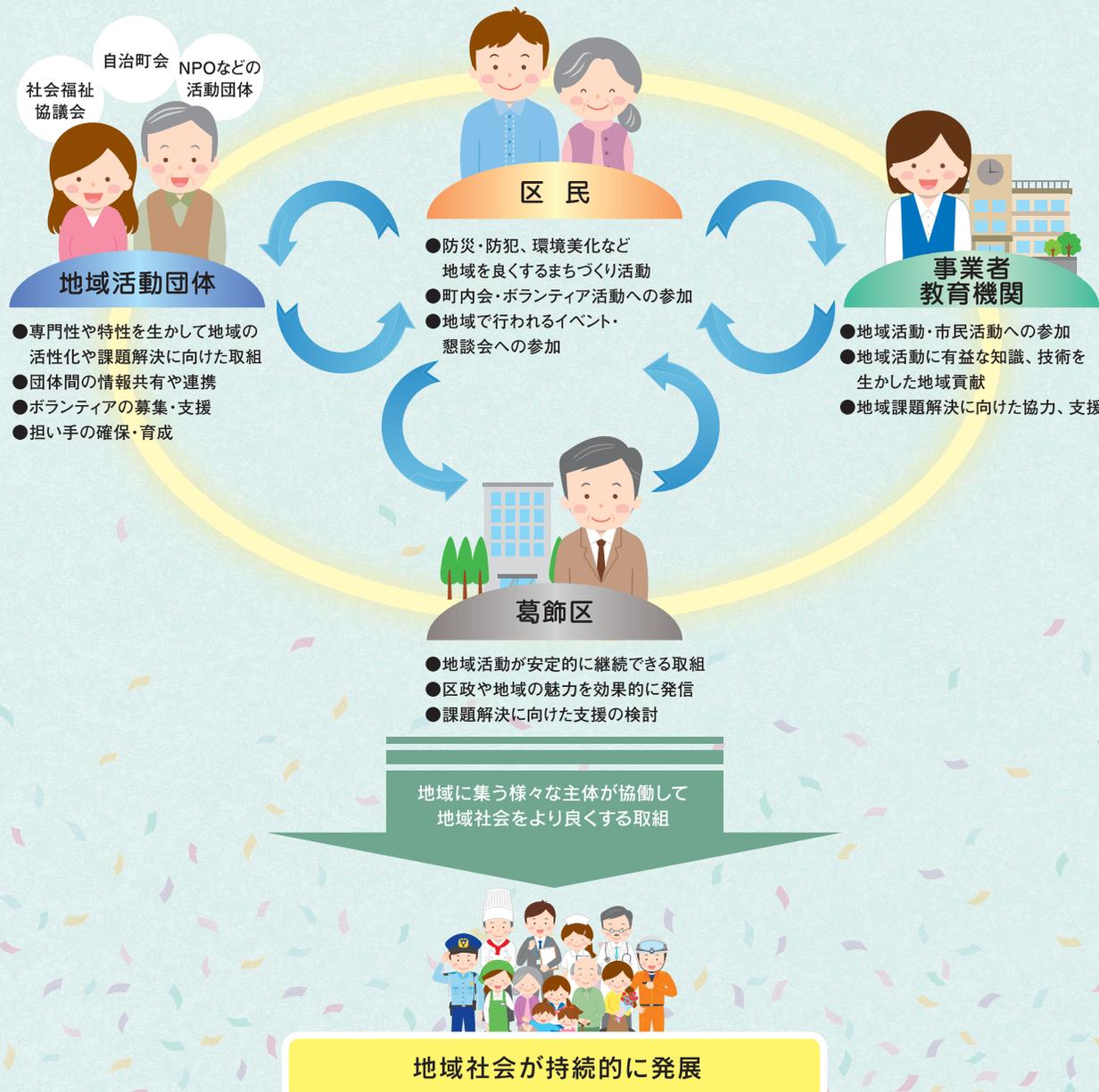
「葛飾らしい協働」の輪を広げていくために

(3) 協働の活動を支える

地域の協働の活動が安定的かつ持続的に発展できるよう、それぞれの活動者が抱えている課題を把握し、活動者の特性や事業の目的・内容等を考慮しながら、必要な支援を進めます。

推進に向けた主な取組

- ◆各種助成・補助金事業（葛飾区地域活動団体事業費助成金等）
- ◆葛飾みんなの協働サイトの運営（再掲）
- ◆ボランティア・地域貢献活動センターでの各種相談・セミナーなど（葛飾区社会福祉協議会が実施・再掲）



葛飾区基本計画「協働推進プロジェクト」の概要

(1) 協働意識・郷土意識を醸成する

区の取組や地域で行われている活動など区政や地域の魅力を効果的に発信し、地域への想いを育み、協働意識を醸成しています。

また、協議会、意見交換会、勉強会、交流会などの様々な機会を通じて、地域の課題を共有しながら、地域の魅力を高めるための活動につなげています。

推進に向けた主な取組

- ◆葛飾区協働映像（DVD）の制作・放映 協働事例集の発行
- ◆職員出前講座の実施 下町川柳コンクールの実施
- ◆「協働のまち葛飾」（広報かつしか）の連載
- ◆各種協議会・意見交換会・勉強会・交流会の開催・計画等策定への参画 など

(2) 協働を広げる・深める

① 協働への「きっかけ」をつくる

地域活動に興味がある方や地域活動に有益な知識・技術を持つ方が、協働の活動をはじめするための「きっかけ」づくりを進めています。

② 協働の可能性を広げる

多様な主体を協働の取組につなげて、様々な分野で新たな取組を生み出し、協働の可能性を広げています。

③ つながりを広げる・深める

協働の活動者同士が情報共有や連携し合える環境づくりを進めてつながりを広げ、そのつながりを深めながら協働の取組を活発化させています。

推進に向けた主な取組

- ◆葛飾みんなの協働サイトの運営
- ◆協働による事業の実施（共催・実行委員会等・事業協力・後援等）
- ◆ボランティア・地域貢献活動センターの運営（葛飾区社会福祉協議会による）など

<協働推進担当からのお知らせ>

葛飾協働まちづくり表彰

葛飾協働まちづくり表彰は、区内において、地域をより良くし、区民福祉の向上に寄与する活動に尽力されている方や団体、事業者の皆様の功績を称えることにより、協働による夢と誇りあるふるさと葛飾を推進していくことを目的に実施しています。

※令和3年3月に、令和2年度葛飾協働まちづくり表彰式表彰式を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症のため延期となりました。



令和2年度の表彰団体等は、次の方々です。

表彰団体等および活動概要

番号	区分	表彰団体等	活動概要
1	個人	村上 孝利	「子どもたちのオープンスペース空手」の講師を無償で務めるなど、青少年の健全育成事業を実施
2	団体・グループ	NPO法人 かつしか若手産業人会	「水元WAKATEフェスタ」の開催など、地域産業と地域社会の活性化事業を実施
3		葛飾区商店街連合会	かつしかプレミアム付商品券の発行など、区内商業の活性化事業を実施
4		アイリスほほえみの会 (青戸地区福祉活動委員会)	青戸地区において、安心して暮らすことができる福祉のまちづくり事業を実施
5		葛飾回想法トレーナーの会	回想法による認知症予防事業を実施
6		亀有銀座商店街振興組合	「納涼盆踊り大会」や熱中症予防対策事業を実施
7		NPO法人 ハーフタイム	子どもたちに寄り添う居場所づくりや支援事業の実施
8		葛飾区合唱連盟	「合唱祭」や「葛飾区民文化祭合唱の部」の開催など、区内の文化芸術事業を実施
9		柴又おはなしこるりん	保育園や児童館などで人形劇を演じたり、「おはなし会」を実施
10		柴又語りの会	保育園や児童館などで人形劇を演じたり、「おはなし会」を実施
11		葛飾区陸上競技協会	「かつしかふれあいRUNフェスタ」の開催など、地域のスポーツ振興事業を実施
12		葛飾区軟式野球連盟	「葛飾区軟式野球王座決定戦」の開催など、地域のスポーツ振興事業を実施
13		葛飾区ソフトテニス連盟	「ソフトテニス選手権大会」の開催など、地域のスポーツ振興事業を実施
14		葛飾区卓球連盟	「卓球選手権大会」の開催など、地域のスポーツ振興事業を実施
15		葛飾区バレーボール連盟	「バレーボール選手権大会」の開催など、地域のスポーツ振興事業を実施
16		事業者等	京成電鉄株式会社

<協働推進担当からのお知らせ>

葛飾区における協働事例を

YouTubeやDVDで
ご覧いただけます



地域や事業者の皆様に協働による取組を広く知っていただくため、活動の一部を映像にまとめました。YouTubeやDVDなどで見ることができます。多くの方に見ていただくことで、協働の取組への興味や関心を高めていきます。

また、このDVDは無償で貸出しを行っています。貸出しを希望される方は、政策企画課（協働推進担当）までお問い合わせください。

<令和3年度の取材団体>

- NPO法人葛飾アクティブ.COM
- かつしか3Rサポーターの会
- 東新小岩七丁目町会市民消防隊
- 金町地区小地域福祉活動推進委員会
- NPO法人みらくる

<葛飾区公式YouTubeチャンネル>

<https://www.youtube.com/user/citykatsushika>



<問い合わせ> 政策企画課（協働推進担当） 電話 03-5654-8177

ファックス 03-5698-1501 メール KYOUDOU@city.katsushika.lg.jp

<申込方法>

① 講座を選ぶ

講座一覧よりご希望の講座をお選びください。
※同時に2つ以上の講座の申込みも可能です。

② 講座の連絡先に連絡する

受講希望日の20日前までに、講座一覧に記載した連絡先にご連絡してください。なお、日時は調整が必要な場合がありますので受講希望日を3日程度お伝えください。

③ 申込書を提出する

受講希望日を確認後、講座の連絡先へ所定の申込書をご提出ください。

④ 出前講座実施

区職員が会場へ伺い、お話しします。

※この講座は、政治・宗教・営利活動を目的とした催しには利用できません。
また、区に対する陳情などをお受けする目的で行うものではありませんので、ご理解ください。

<オンライン版・職員出前講座の配信について>

区では、時間や場所にとらわれずに受講できる
オンライン版の職員出前講座を制作し、
区公式YouTubeチャンネルにて配信を開始しました。
今後もオンライン講座のコンテンツを充実させ、
区民の皆様にも本区の取組をPRしていきます。

NEW!!



▲水害ハザードマップについて学ぼう!

現在公開されているオンライン版・職員出前講座は、区公式YouTubeチャンネルの再生リストよりご覧いただけます。

◆葛飾区公式YouTubeチャンネル

<https://www.youtube.com/user/citykatsushika>



<協働推進担当からのお知らせ>



葛飾区 職員出前講座

葛飾区では、かねてよりさまざまな方々によって、地域を良くしようとする活動が行われてきました。区民・事業者の皆様と区が「協働」することで、こうした活動を一層素晴らしいものにすることができます。

職員出前講座を通じて、区職員が皆様の地域に伺い、区の現状や取組についてお話しし、地域への想いや協働意識を育む取組を行っています。



対象

区内在住・在勤・在学の10人以上の団体・グループ

日時

午前9時～午後9時の2時間以内（年末年始を除く）

会場

区内のご希望の場所（会場については、申込み団体・グループでご用意ください）

申込書配布

区ホームページ・区民事務所・地区センター・図書館など

<問い合わせ> 政策企画課（協働推進担当） 電話 **03-5654-8177**

ファックス **03-5698-1501** メール **KYUODOU@city.katsushika.lg.jp**

協働のまち葛飾

したまち

せんりゅう

下町山柳

コンクール

第4回(令和2年度)

テーマ 家族・友だち



葛飾区では、みんなが「ことば」の力でつながり、助け合い、葛飾愛を深めていく！
 そうした思いを込めて、川柳コンクールを行っています。
 葛飾の魅力が詰まった川柳を紹介します！

一般の部

区長賞
蹴りどばせ 世界のコロナ
翼くん 荒木光弘

葛飾川柳連盟会長賞
抱いた子に 今では腕を
支えられ はっぱ坊

特別賞
子の寝顔 生きる力の
糧となり 川上明子

小学生の部

区長賞
さびしいよ だまってたべる
きゆうしよくは 齋藤悠祐

教育長賞
友達と 打倒コロナで
がんばるぞ 池田權斗

葛飾川柳連盟会長賞
好きな人 天使のように
かわいいな 山室陽太郎

中学生の部

区長賞
家族には 言えないいつも
ありがとう 榎本優人

教育長賞
くだらない ことで笑える
友がいる 岡田悠希

葛飾川柳連盟会長賞
失って 初めて気づく
大切さ 中基歴広



第4回協働のまち葛飾川柳コンクール表彰式

第1回 テーマふるさと葛飾

一般の部
 (区長賞) 寅さんと同郷ですと胸を張り 新実千秋
 (葛飾川柳連盟会長賞) 葛飾の音と匂いの町工場 きよやん
 (特別賞) ランフェスタ 菖蒲見守るほりきりん 川井康弘

中学生の部
 (区長賞) 江戸切子職人達の技光る 伊藤陽一
 (教育長賞) ねえ寅さん 女もつらいの 最近は 内藤日菜
 (葛飾川柳連盟会長賞) 下町の力あふれる 葛飾区 大塚杏奈

小学生の部
 (区長賞) かつしか区 明日へ一歩むいている 有馬衣風
 (教育長賞) 機械音響く下町 葛飾区 ぶーちゃん
 (葛飾川柳連盟会長賞) つりさんぽ 水元公園 ぼくのいわ 鬼塚音弥

第2回 テーマ力(ちから)

一般の部
 (区長賞) プレス踏む ミな工場の底力 真田幸雄
 (葛飾川柳連盟会長賞) おむすびの力加減も 味のうち 日笠良子
 (特別賞) 力ではなぜ開かない 恋の蓋 田中祥元

中学生の部
 (区長賞) 町中に 和太鼓ひびく 夏祭り 深澤莉奈
 (教育長賞) 深海も 探検できる 技術力 権田美凜
 (葛飾川柳連盟会長賞) 機械音 職人達の技光る 馬場奏流

小学生の部
 (区長賞) ねじ一本 社会つなげる力あり 奈良悠瑚
 (教育長賞) つなげたい 活力の町 ぼくたちが 上村空澄
 (葛飾川柳連盟会長賞) お年寄り 畑仕事も 力あり 東泉杏奈

第3回 テーマ祭り

一般の部
 (区長賞) 浴道に 止めて山車待つ 車椅子 森澤多美子
 (葛飾川柳連盟会長賞) 此の浴衣 母の形見で 祭りの輪 井上清
 (特別賞) 下町に 育ち三代 祭笛 白塚榮重

中学生の部
 (区長賞) 下町の笑顔あふれる 夏祭り 松本優香
 (教育長賞) 目を奪う 花火に負けぬ 君の笑み 榎本美桜
 (葛飾川柳連盟会長賞) 活気つき 街が1つになる 祭り 深澤優寿

小学生の部
 (区長賞) 出てくるよ かつしかおんど ぼくの町 上村空澄
 (教育長賞) 夏まつり 人びと笑顔 あふれるよ 大場悠生
 (葛飾川柳連盟会長賞) 耳ふさぐ 花火舞い散る 星のよう 木下琴葉

入賞・入選作品は、区公式ホームページ等で公表しています。

お知らせ

- ◆第5回(令和3年度)のテーマは「人情」で実施しました。
- ◆第6回(令和4年度)の応募に関する情報は、令和4年夏頃公表予定です。

※詳細については、区公式ホームページ (<https://www.city.katsushika.lg.jp/>) をご覧ください。
 <トップ→区政情報→区役所の取り組み→協働→協働のまち葛飾下町山柳コンクール>

<協働推進担当からのお知らせ>

／リニューアル／

葛飾みんなの協働サイト

葛飾区では、区内で地域貢献活動をしている自治町会や区民活動団体、NPO、事業者などの皆様が、活動内容やイベント、ボランティア募集などの情報をタイムリーに紹介することができる「葛飾みんなの協働サイト（以下「協働サイト」という。）」を運営しています！

<葛飾みんなの協働サイト>

<https://www.facebook.com/groups/katsushikakyodo>



<葛飾みんなの協働サイトへシェアできる内容>

活動紹介やイベントの開催、ボランティア募集など、基本的に団体の活動に関するものであればシェアできます。記事をシェアして広く周知・PRしましょう！

例えば、このような内容がシェアできます。

- ◆団体紹介の基礎情報（写真・動画（YouTube）も掲載可能）
- ◆団体のPR記事（活動目的、活動内容、活動実績、メンバー構成、活動日時、主な活動場所など）
- ◆日々の活動報告
- ◆イベント、講座のお知らせ、ボランティア・会員等の募集情報 など

※協働サイトへシェアできないものや禁止事項については、規約・運用要領でご確認ください。

<新規会員募集中！>

協働サイトにシェアしていただく会員を募集しています。協働サイトに登録を希望する場合は、区公式ホームページから申請書をダウンロードし、必要な書類を添えて政策企画課（協働推進担当）までご提出ください。

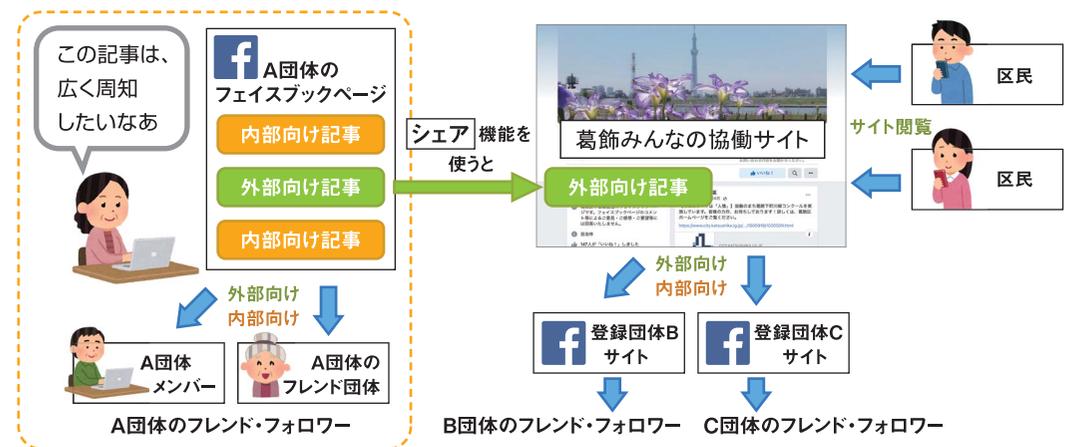


<問い合わせ> 政策企画課（協働推進担当） 電話 03-5654-8177

ファックス 03-5698-1501 メール KYOUDOU@city.katsushika.lg.jp

<葛飾みんなの協働サイトとは？>

- フェイスブックのグループ機能を使い、会員同士の投稿を共有（シェア）する場です。
- 会員の方は、ご自身のフェイスブックサイトにおいて投稿し、その投稿記事の中から、協働サイトで紹介したい記事を「シェア機能」を使って共有することで、団体の投稿を広く周知することができます。
- 他の団体の外部向け記事もご自身のページに表示されるようになるので、区の様々な協働の団体の活動を知ることができるようになります。



※「シェア」とは…自分や他の人が投稿した内容を、自分以外の人（友達やその他多数）に広めること。また、「シェア」する際にコメントを入れて投稿することもできる。

※詳細については、区公式ホームページ (<https://www.city.katsushika.lg.jp/>) をご覧ください。
 <トップ>→区政情報→区役所の取り組み→協働→葛飾みんなの協働サイト>

花いっぱいのまちづくり

活動団体：葛飾区緑化推進協力委員会、かつしか花いっぱいのまちづくり推進協議会

事前ガイダンスで「花いっぱいのまちづくり」事業について理解を深めた上で、フラワーメリーゴーランドやフラワーキャンパスの花の手入れを行いました。また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の参画プログラム「花いっぱいでおもてなし」に葛飾区が参加する意義を聴き、協働のパートナーに対する理解を深めることができる良い機会となりました。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催期間中は、臨海副都心にあるシンボルブロンナード公園内に「オリンピックブロンナード」と銘打ち、大会の祝祭感を感じられる象徴的なエリアが展開されました。



← 聖火が設置されていた「夢の大橋」には葛飾区のフラワーメリーゴーランドが飾られていました。



↑フラワーキャンパスには、「TOKYO2020」と文字を描くように花で彩りました。

<問い合わせ>

人材育成課 電話 03-5698-2611

ファックス 03-5698-2613 メール 031600@city.katsushika.lg.jp

採用2年目職員の「協働研修」を紹介します！

目的

葛飾区では、新人から管理監督者までの職員を対象に、協働意識の醸成を図る研修を実施しています。特に、採用2年目の職員は実地研修を通じて、協働についての学びを深めています。

これは、区内の団体や企業などが活動する現場に赴き、活動されている皆様と同じ作業を行い一緒に汗を流すことで、皆様がどのような思いを持って活動に携わっているのかを肌で感じ、その体験を今後の仕事にどう生かしていくかを考えていくものです。



内容

① 導入研修

協働について理解を深め、本研修の目的や学習テーマを明らかにする。



② 実地研修

(区内活動団体などへの派遣)

団体などが活動する現場に赴いて区民の声を直接聞くことで、協働のパートナーに対する理解と知識を深めるとともに、区の現状と課題を知る。

③ 振り返り研修

これまでに学習したことを自らの仕事の中で生かすため、個々の体験や学びを共有するとともに、体験の成果を明らかにし、協働に対する意識をさらに高めていく。

区と団体が一体となって、同じ目的を持って取り組んでいるのを肌で感じる事ができました。

区民がやりがいを持ち、活躍できる場を提供することが、職員にとって必要だと感じました。

研修生の感想



災害ボランティア活動支援体制づくり

災害ボランティア活動支援

葛飾区社会福祉協議会は、区と締結している「災害時におけるボランティア活動に関する協定」に基づき、区内で大規模災害が発生した場合に、災害ボランティアの活動拠点となる災害ボランティアセンターを設置します。そのため、日頃から、災害ボランティアセンターの立ち上げ訓練や各種講座を通じて、災害時の対策や災害ボランティア活動支援を行っています。

- ◆災害ボランティア講座
- ◆災害ボランティア体験講座
災害ボランティアセンター設置・運営訓練
(災害時に必要となるボランティア活動などを体験)
- ◆災害ボランティア登録制度
- ◆普及啓発活動
- ◆災害支援三者交流会
(ボランティア団体やNPO法人、関係機関との連携体制づくりなど)



福祉・ボランティア出前講座

地域や学校へ講師を派遣し、さまざまな講座(車いす体験・手話体験など)を開催して、福祉やボランティアに関する普及啓発を行っています。



その他の事業

- ◆ボランティア講座 ◆ボランティア相談 ◆福祉教育推進活動 ◆ハンディキャップ運行事業

詳細については、ホームページをご覧ください。

https://www.katsushika-shakyo.com/service/other/volunteer_center/



葛飾区社会福祉協議会 ボランティア・地域貢献活動センター



開設日時

午前8時30分から午後5時(土・日・祝日・年末年始を除く)
毎月第1・3土曜日は開所

場所

〒124-0006
東京都葛飾区堀切3-34-1 ウェルピアかつしか 1階

問い合わせ

電話 03-5698-2511 ファックス 03-5698-2513
メール vc@katsushika-shakyo.com

ボランティアやNPO活動についての相談窓口

ボランティア・地域貢献活動センター

「ボランティア・地域貢献活動センター」は、ボランティア活動をしたい方と、ボランティアを必要とする方をつないでボランティア活動の輪を広げます。また、ボランティア団体やNPO法人などを支援するとともに、葛飾区内の地域貢献活動の活性化を図るために講座や交流会なども開催しています。



区内の様々なボランティア活動を紹介! ボランティアまつり



ボランティア団体やNPO法人などの紹介や活動をPRするため、年1回、秋に開催しています。参加団体には「他の団体との交流」、来場者には「ボランティア活動について知ってもらい、活動に参加するきっかけ」の場となっています。令和3年度は感染症対策のため、規模を縮小して実施しました。当日は、福祉施設などによる自主生産品の販売やバザーの開催、オンライン上で講演会や吹奏楽の演奏、区内の団体を紹介するスライドショーなどの動画を会場で流しました。まつり終了後も葛飾区社会福祉協議会のホームページに特設サイトを開設し、当日参加できなかった方に向け動画を配信しました。

「はじめたい、継続したい」を支援! 地域貢献活動サポート事業

職員や専門家による相談事業

一般相談・出張相談

活動方法、団体の結成や運営、NPO法人の設立などの相談

専門家による相談

団体を運営する上で必要な税務、会計など、専門的な相談(予約制)



▲オンラインによる専門相談

ボランティア・NPO入門講座 (かつしか区民大学単位認定講座)

地域貢献活動をこれから始めたい方、基礎的な知識を学びたい方向けの講座

協働関係の構築

個人や団体、各関係機関との連携及び協働関係構築のサポート

交流会(年4回)

法律や税務などの他、子ども食堂など関心の高いことをテーマにして開催

コラボかつしかまつり

※令和3年度はボランティアまつりと同時開催

情報の収集と発信

情報誌「かつしかゴト。」の発行、メルマガやSNSの発信

葛飾区協働事例集 (2022年版)

発行日：令和4年3月

発行：葛飾区

〒124-8555 東京都葛飾区立石5-13-1

電話 03-3695-1111 (代表)

<https://www.city.katsushika.lg.jp/>

編集：葛飾区政策経営部政策企画課

電話 03-5654-8177 (直通)



この冊子は、印刷用の紙へリサイクルできます。